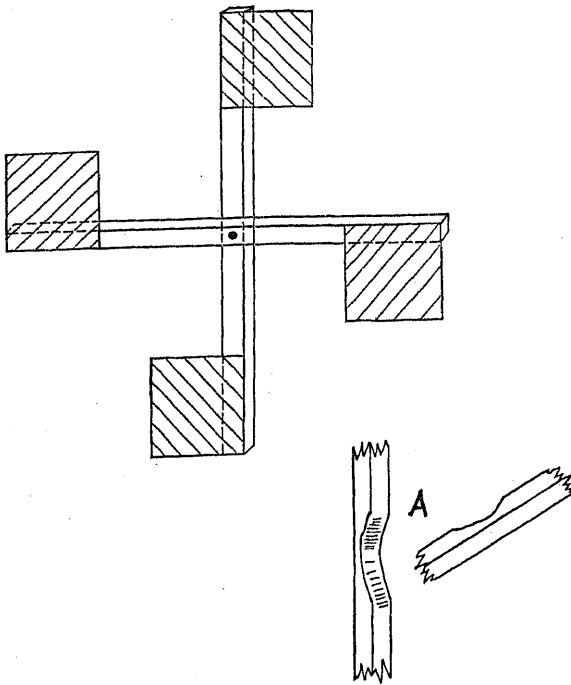


家庭教育玩具の作り方 (續き)

第七圖 風車

(寸法。〃は寸又は吋、ノは尺又は呎)



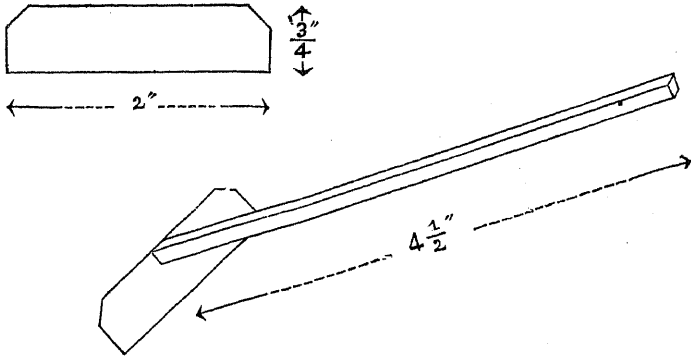
同じ長さの燐寸棒を二本取りて、其の中央を眞十字字に成る様に附着する。それから葉書又は畫用紙を<sup>二</sup>平方に裁ちたるものを四枚作りて、之を圖に示す如くそれ<sup>一</sup>十字字の端に貼付する。糊がすつかり乾いたら交叉部の中央に孔を穿つて其に留針を通すのだが、此の孔は留針よりも少し許り大きくして風車が留針を軸として能く廻る様に作らねばならぬ。そこで今一本燐寸棒を取りて其の一端に前の留針の尖端を刺して柄となせば、それで風車が出来上る譯である。

少し面倒だが今一つの方法は、十字字を作る時に棒を二本とも其の中央の所をA圖に示すが如く厚さの半分位まで削り去りて、然る後に組み合すれば四本の手が水平になるから

藤五代策譯

恰好が良くなる。

第八圖 草削り

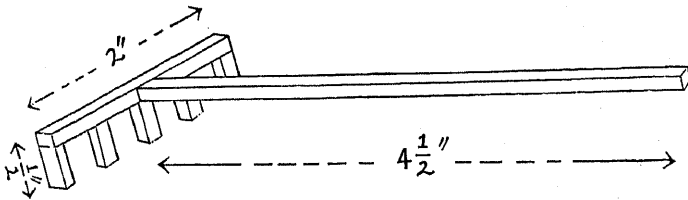


それが出来たら圖に示す如く板の上方を軽く削り

燐寸棒を $\frac{1}{2}$ に切りて柄となし、刃の部分には被板（今後は單に平板と呼）を長幅に裁ちて用ふ、尙ほ板の木理が横になる様に注意せねばならぬ。そこで様の上方の中央に印を附けて置いて、柄の一端を膠に浸して印の附いた所に附着する。

去る。

第九圖 熊手

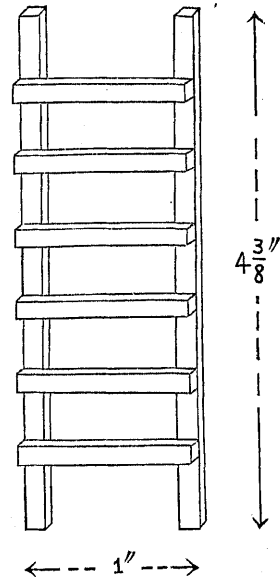


ら、柄を附ける前に柄の切口を少し許り斜に削つ

燐寸棒一本を取りて柄となし、外に長 $\frac{1}{2}$ のを一本と $\frac{1}{2}$ のを五本作り、 $\frac{1}{2}$ のを鉛筆で五等分して印を附けて置き、而して其の印を着いた點及び兩端に前の短い五本の脚を着ける。それが出来たら圖に示す如く柄を付けるのであるが、尙ほ注意すべきは脚と柄とが直角に成つて居ては恰好が良くないか

て置くが宜しい。又脚の端も外面から少し削れば

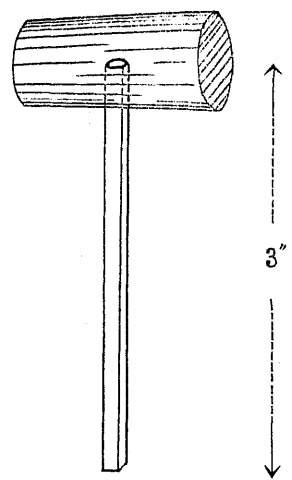
第十圖 梯子



一層良くなる。

長  $4\frac{3}{8}$  の燐寸棒を二本作りて之を梯子の親木とし、 $1\frac{1}{2}$  のを六本作りて段となす。先づ親木を鉛筆で七分分して印を付けて机の上に並べて置き、第一に上と下との段から始めて、漸次段と段との間隔を等しく且つ平行する様に、注意して附着するのである。

第十一圖 槌



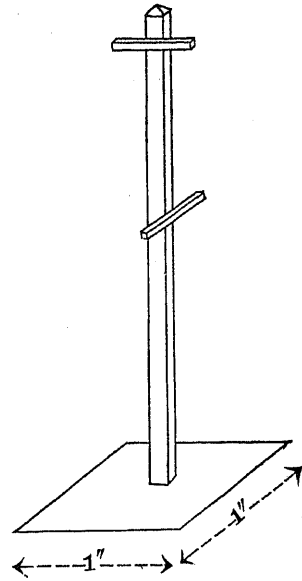
燐寸棒を  $\frac{1}{2}$  に切りて柄と成し、其の一端の角を削りて丸くなし、今度は普通の木栓を取りて、中央から少し許り頭の太い方に寄つた所に孔を穿ち、前に作つた柄の丸い方の端を一寸膠に浸して此の孔に突き込むのである。

第十二圖 物干柱

燐寸棒を一本取りて之を柱とし、其の頂端の切口を削りて圖の如く尖らす、之は雨水が柱の纖維

に染み込めば腐るから水が能く流れて溜らない様にする爲である。此の理由は子供によく説明する價值がある。それから今度は平板を長  $1\frac{1}{2}$  幅  $1\frac{1}{2}$

に裁つたのを二本作りて横木とする。横木は一本



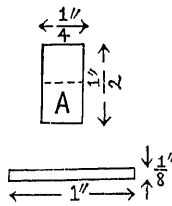
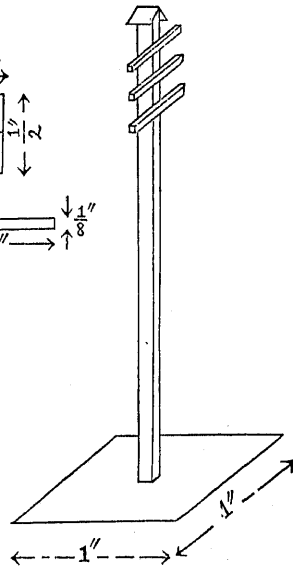
は柱の頂から1/4位の所に膠で附着し、今一本の方は頂から2/4位の所に上のと差し違へに着ける、無論二本とも柱と直角にならなければならぬ。次に臺は平板を1/2平方に裁ちて、之に對角線を引きて中心点を求め、此の點に前の柱の脚を膠に浸して附着するのである。

横木の附け方に今一つの方法がある。それは刃の薄い小刀の尖で柱に豎に割目を作り。横木を稍稍く削りて此の割目に注意して押し込み、又は叩き込むのである。此の方法は少し面倒だが併し

丈夫に出来る。又臺を確乎させるには臺の下から柱に留針を叩き込むのである。

第十三圖 電信柱

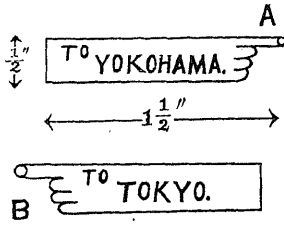
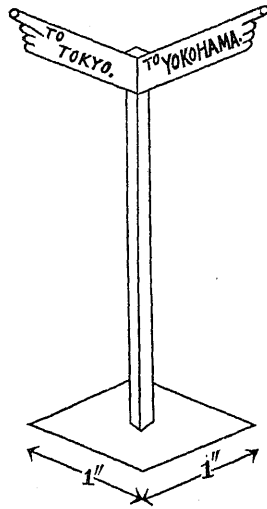
燐寸棒を一本取りて柱とし、其の頂端を楔形に



削りて之に平板で作つた屋根を被せ、雨水や濕氣等の浸入を防ぐ。平板を長1/2幅1/2位の裁ちたるものを三本作りて圖の如く柱に屋根と反對の向きに各平行に附着するのである。屋根は平板を長さ1/2幅1/2位に裁ち、A圖に示せる如く中央の點線に添ふて淺く切目を付けて折り曲げ、之を柱の

頂に貼り附ける。それが出来たら平板を二平方に裁ちて臺となし其の中央に柱を建てる。臺の中心は對角線を引いて見れば直ぐに解る。

第十四圖



燐寸棒一本を柱とし、平板を二平方に裁ちて臺

とし、尙ほ平板の長 $1\frac{1}{2}$ 幅 $1$ のを二枚作つて掲示板とする。そこで掲示板にA圖及びB圖の如く<sup>ひとさしゆび</sup>人差指を伸張した左右の手を描きて、缺で奇麗に切り抜き、それに行先の地名を書いて圖の如く柱に附着し、柱を亦臺に取り付けるのである。

年間へば片手出す子や更衣 一 茶

たのもしやてんつるてんの初裕 同

金太郎が膝ふしぎりの裕なか 同